

# 卒業論文のテーマ設定 ～どう取り組めばよいか～

## [Step 1]. そもそも論文とは？ 論文に必要な要素を知っておきましょう。

卒業論文も含めて、学術論文と呼ばれるものには、ある一定の要件があります。考え方には諸説ありますが、基本的に論文には、以下のいずれかの要素が必要になるというのが概ね一致した見解です。

- ・ 何らかの学術的内容に関して、未解決な問題を提起し、その合理的解決（または合理的提案）を示していること

⇒新たな内容の提示であることはもちろんですが、その自分の考え方を、主観的な立場から一方的に述べるだけでなく、他者の考え方や数値的なデータなども踏まえ、客観的かつ合理性のある内容であることを具体的に示すことが必要となります。

- ・ 既存の学術的通説に対して異を唱え、合理的な内容で新たな説を提唱すること

⇒過去の通説をまとめてあるだけでは駄目で、通説とは異なる筆者独自の新たな見解を、客観的かつ合理性のある内容で示すことが必要となります。



オリジナルな意見・提案を合理的な形で示すことが、論文の必要不可欠な要件となります。こうした前提を頭に入れながら、どのようなテーマを取り上げて論じるのかを考えましょう。

## [Step 2]. テーマ設定のポイント。

卒業論文では、今まで授業の課題やレポートで作成していた時とは、比べものにならない分量の文章を書くこととなります。長い時間を掛けて作成するものなので、その場の思いつきだけで対応していると、終盤の局面で行き詰まったり、思わぬしっぺ返しを食らうことがあります。

方法は色々ありますが、テーマを決める際のポイントを以下に記します。テーマ決定のご参考にしてください。

### 2-a. まずは興味のあることから探す（方向性を定める）

⇒長い時間を掛けて取り組む内容なので、単なる付け焼き刃で対応すると、時間のあまり残されていない局面で方向転換を迫られる危険性があります。比較的興味を維持し続けられる内容から選ぶことが大事です。自分が今までに授業で聞いてきた内容や、衝撃に感じた内容を取っ掛かりに、方向性を定めるのが第一歩になります。

おおよその方向性を決めたら、今度はそこからどのような内容に取り組むのかを決めることとなります。

### 2-b. 入門書や概略書を読んで、さらに研究テーマの絞り込みを行う

⇒特定の人や事件をテーマに書こうとしても、その活動や背景には、膨大な歴史的事実と研究の集積があります。そのため、焦点を絞らないと、単に個人の半生の振り返りや事件の歴史的経緯をおさらいするだけで終わってしまいます。

論文では、新たな説や考え方を提唱しているかどうか問われるので、振り返りや取りまとめだけで終わってしまったら、内容に対する評価も低くなります。

特定の人や事件をテーマにする場合でも、実際に論文を執筆する際には、より詳細な対象に絞って論じることが大事です。

# 卒業論文のテーマ設定 ～どう取り組めばよいか～

例えば「渋沢栄一」であれば、「渋沢栄一の社会福祉活動（特に養育院）について」、「太平洋戦争」であれば、「太平洋戦争開戦時の新聞報道（特に●●新聞）について」など、特定のポイントに対象を絞り込みましょう。

## 2-c. 先行研究の量を確認する

⇒興味のある内容で、さらに対象となるポイントを絞ったとしても、何一つ先行研究のない分野の場合は、研究対象にかかわる一次資料の探索から始めなければならないため、時間的、労力的な負担はかなり大きくなります（その分、完成した暁には立派な論文になります）。

本来的には、自分の取り組みたいテーマについて周到に準備を行い、草の根から資料を集めて臨むというのが研究・論文作成のあるべき姿ですが、最終的なゴール（卒論提出・卒業）までに残された時間を考えながら、探究可能なテーマを考えることも大切です。

## 2-d. 先生と事前にしっかりと相談する

⇒先生方は論文作成のプロです。テーマの探し方・アプローチの方法や論述の見通しなど、皆さんとは比べものにならない量の研鑽と経験を積んでいます。テーマの焦点が絞り込めない、文献が上手く見つからないなどの悩みがあるときには、ゼミやオフィスアワーのタイミングを利用して積極的に相談することで、方向性を掴む手がかりを得られることと思います（もちろん図書館でも、資料探しをお手伝い致します）。

以上